

教 育 と 研 究

計算機センター所長 飯 島 孝 夫

大学は教育機関であるが、高校以下の教育機関と比べたときの違いは、単に教育を受ける人達がより高年齢であり、従って教育内容がより専門的であるというだけではない。大学では教育と同時に研究が行なわれている。これが大きな違いである。学生は直接研究に参加する機会も与えられるが、それだけではなく教員を通じて現在進行中の研究の、生々しい匂いを嗅ぐことができる。これが非常に大切である。大学における教育は研究との統合の上に成立するものであり、そのためには、教員の頭の中に常に研究のことが巣くっていることが必要である。

計算機センターについてもこのことは当てはまらなければいけない。しかし現状は必ずしも理想的とはいえない。情報処理教育の充実が必要とされ、加えて受講希望者の増加に対応するために、所員（助手を含む）は専ら教育機関としての業務に忙殺される傾向にある。長期的な態勢が整うまでの過渡的な現象としてはやむをえないかも知れないが、慢性化しないように留意しておくてはいけない。そろそろ教育と研究のバランスを回復することを考える時期ではないかと思う。

本号には、計算機センターの研究機関としての活動の成果がいくつか報告されている。